もっと展覧会を楽しもう！

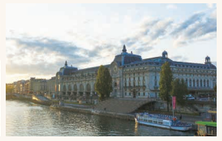
「風景画のはじまり ～コローから印象派へ～」展 関連企画

NHKミュージアムシアター ～8Kで巡る世界の至宝～

[入場無料・申込不要]

オルセーやルーブルなど世界を代表する美術館の「至宝」や、日本が世界に誇る「国宝」の数々を紹介した番組を、8Kの臨場感あふれる高精細映像でお楽しみください。

●2月27日(土)～3月21日(日)
●上映時間／午前9時30分～午後4時30分
●会場／美術館1階特設スペース(無料エリア)
●上映プログラム／「オルセー美術館 II 月の肌触り」
「ルーブル美術館」「世界で一番美しい本」「国宝へようこそ」
主催：NHK福井放送局、福井県立美術館
◎お客様の入場を制限する場合がございます。
あらかじめご了承ください。



同時開催

番組プロデューサーによるトークショー ～8Kで撮る世界の至宝「オルセー美術館」を中心に～

[入場無料・要事前申込]

8K番組「オルセー美術館」や「日曜美術館」「びじゅチューン！」などの美術番組制作プロデューサーによるトークショーを実施します。普段聞くことができない制作の裏側をお話しします。

講師：倉森京子氏(NHKエデュケーショナル 特集文化部プロデューサー)
●2月28日(日)午後2時～(1時間程度)
●会場／美術館講堂(無料エリア)
●定員／40名(申込抽選)
●申込／NHK福井放送局ホームページからお申込ください。
PC・スマホサイト　https://www.nhk.or.jp/fukui/

見どころ解説会　[参加無料・申込不要]　講師：展覧会担当学芸員

●会場／美術館講堂(無料エリア)
●2月27日(土)午後2時～
●3月6日(土)、13日(土)、20日(土)午前10時30分～　各回約20分間

ミュージアムコンサート 「巨匠たちの絵画」 フルート＆ハープ

[有料・要事前申込]

浅川由美氏(フルート)

佐々木美香氏(ハープ)

●令和3年3月7日(日)午後2時～4時
●会場／美術館講堂、展示会場
●定員／40名(申込先着)
●会費／ 大人1,400円 高校生800円 小中生500円(観覧チケット付) 当日徴収
●午後2時～ コンサート、午後3時～ 担当学芸員によるギャラリートーク
●申込／美術館ホームページからお申込ください。

フランス絵画と福井の食を楽しむ特別解説会

[有料・要事前申込]

[シェ・サカイ]

●料理／オーナーシェフ 阪井信隆氏
●令和3年3月6日(土)午前11時30分～午後1時30分
●場所／シェ・サカイ
(福井市田原1-7-10 シャトレー田原101 TEL:0776-29-1126)
●定員／15名(申込先着)
主催：シェ・サカイ
共催：福井県立美術館

[ジャルダン]

●料理／シェフ 吉川正裕氏
●令和3年3月14日(日)午前11時30分～午後1時30分
●場所／フランス料理 ジャルダン
(福井市文京4-28-16 TEL:0776-29-0026)
●定員／40名(申込先着)
主催：フランス料理 ジャルダン
共催：福井県立美術館

※料理写真はイメージ

❶担当学芸員による見どころ解説
❷会食とシェフによる料理紹介
❸フリートーク
●会費／6,500円
(展覧会図録と観覧チケット付)当日徴収
※展覧会は期間内に各自ご鑑賞ください
●申込／美術館ホームページからお申込ください。

美術館喫茶室ニホ 学芸員トークサロン　[無料・要事前申込]

●3月13日(土)午後5時～6時
●会場／美術館喫茶室ニホ　●定員／10名(申込先着)
●会費／無料(お飲み物をご注文ください)
●申込／美術館ホームページからお申込ください。
◎展覧会中は特別コラボメニューをご提供します。
是非ご賞味ください。

ミュージアムショップ

展覧会図録や関連グッズ、美術館オリジナル商品を豊富にご用意しています。是非お立ち寄りください。

美術館ホームページからのお申込は、コチラから ▶

○新型コロナウイルスの感染状況、荒天などの影響により内容が変更になる場合があります。ご来館の際には、事前にホームページ等でのご確認をお願いします。
○入館時にマスクの着用、手指消毒、検温、代表者連絡先の記入へのご協力をお願いします。

交通のご案内

●コミュニティバスすまいる　JR福井駅前西口(6番のりば)より、北ルート(田原・文京方面)「藤島高校前(県立美術館前)」下車
●京福バス　JR福井駅前西口(2番のりば)より、23、25、26、27、28系統「藤島高校前」下車　※日曜日、祝日は運休
●福井鉄道・えちぜん鉄道　「田原町駅」下車徒歩8分
●車・タクシー　JR福井駅より約8分、北陸自動車道・福井北ICより約15分
※ご来館の際はできるだけ公共交通機関をご利用ください。
※お車の際はアイドリングストップにご協力ください。

Fukui Fine Arts Museum
福井県立美術館
〒910-0017　福井市文京3-16-1
TEL:0776-25-0452　FAX:0776-25-0459

ランス美術館コレクション

風景画のはじまり

2021 会期中無休 2.27(土)▸3.21(日) ※2月27日(土)は午前11時から

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
主催／福井県立美術館　共催／福井新聞社、福井テレビ
後援／在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本　協力／日本航空
企画・監修／ランス美術館 Exposition produite et gérée par le Musée des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS EN FRANCE.
企画協力／ブレーントラスト

ウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)　トルーヴィルの浜辺　油彩／カンヴァス
Inv. 949.1.68　© MBA Reims 2019/Photo : C.Devleeschauwer
Eugène Boudin (1824-1898)
Sur la plage de Trouville

【当日券】
一般1,400円(団体1,120円)
高校生800円(団体640円)
中小生500円(団体400円)
※団体は20名以上　※障害者および介護者1名は半額
※未就学児は無料

Fukui Fine Arts Museum
福井県立美術館　〒910-0017　福井市文京3-16-1　TEL:0776-25-0452

ランス美術館コレクション
風景画のはじまり

EN ROUTE VERS L'IMPRESSIONNISME
Peintures françaises du musée des Beaux-Arts de Reims

コロー、バルビゾン派、ブーダン、モネ、ルノワール、ピサロ

Chapitre 1 コローと19世紀風景画の先駆者たち

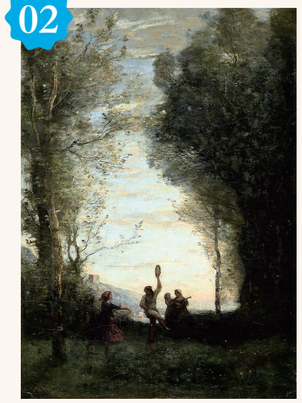
Corot et les précurseurs du paysage au XIXème siècle

01

アトリエで再構成された古代風景

風景画が下級だと見なされたこの時代、自然の中に神話や古代の場面を描き込む必要があった。自然に人を溶け込ませて描く新しい写実的な風景画が生みだされ、バルビゾン派の先駆けとなった。

ジャン=ヴィクトール・ベルタン(1767-1842)
「風景」1820 年　油彩／カンヴァス　Inv. D. 901.1.1
国立造形センター(文化省)より寄託(1901年)



02

夢のように美しい旅の思い出

鉄道の発達、チューブ入り絵具の発明により、戸外にイーゼルを立てて描くことが広まった。コローはアトリエで作品を完成させてはいたが、イタリアやフランス中を旅する際に、屋外制作を行った最初の画家のひとりである。ランス美術館はフランス国内でルーヴル美術館に次ぐコロー作品のコレクション数を誇る。本展でも16作品が一堂に会する。

ジャン=バティスト・カミーユ・コロー(1796-1875)
「イタリアのダンス」1865–70 年　油彩／カンヴァス
Inv. 887.3.1

03

見えるものしか描かない

レアリスム(写実主義)の代表画家クールベが描く、ありのままの自然。きわめて写実的にスイスの山岳地帯をとらえた一枚は、再現された光景の厳密さにかかわらず、詩的な雰囲気を失っていない。

ギュスターヴ・クールベ(1819-1877)
「レマン湖の岸辺(急流)」1875 年頃　油彩／カンヴァス
Inv. 907.19.73

Chapitre 2 バルビゾン派

L'Ecole de Barbizon

04

大地と共鳴する"紅一点"

パリの南東約60kmに広がるフォンテーヌブローの森に位置するバルビゾン村は、19世紀に入るとすぐさま風景画家たちのお気に入りの場所となった。15歳から村に通ったルソーは同地に定住し、先駆者となって若い画家たちを戸外制作へと促した。都市の喧騒をはなれ自然と向き合いながらより純粋な風景画を追求した。

テオドール・ルソー(1812-1867)
「沼」1842–43 年　油彩／カンヴァス　Inv.907.19.227

05

湿った大地、森の秋、匂い、温度

バルビゾン派のなかで最も有名な動物画家であるトロワイヨン。多くの注文を受け外国でも展覧会が行われた。彼の風景画に牛や羊そして農民が登場するのは、オランダやベルギーに滞在したのちのことであった。豊かな市民層が現れ、いち早く風景画や静物画が人気となった17世紀オランダの伝統を復活させたのである。

コンスタン・トロワイヨン(1810-1865)
「ノルマンディー、牛と羊の群れの帰り道」1855 年
油彩／板　Inv. 907.19.234

06

いま何時か分かる！時の風景画

コローの友人であるアルピニーは19世紀後半に活躍した高名な風景画家。作家のアナトール・フランスは彼のことを「田園風景と樹のミケランジェロ」と呼んだ。季節感の表し方や光線の処理、一日のさまざまな時間をどう描くかといったことを重視していた。

アンリ=ジョゼフ・アルピニー(1819-1916)
「ヨンヌの思い出、サン=ブリヴェからブレノーへの道」
1885 年　油彩／カンヴァス　Inv. 907.19.128

Chapitre 3 画家＝版画家の誕生

L'avènement des peintres-graveurs

07

戸外制作をする新しい画家の姿

アドルフ・ボルティエ(1820-1889)
「風景画家たち(レオン・ロワールに基づく)」1876 年
エッチング／紙　個人蔵

コローからモネへ　2.27(土)▸3.21(日)

フランス絵画の宝庫として知られる、ランス美術館(フランス)選りすぐりのコレクションを中心に、76点が福井にやって来ます。

本展は19世紀フランス風景画の流れを一望できる、またとない機会となります。パリにほど近いフォンテーヌブローの"森"を愛したコローらバルビゾン派から、ブーダンのもとノルマンディーの"海"に集った仲間たちへ、そして絵画に色彩と光の革命をもたらした、モネ、ルノワール、ピサロら"印象派"へと展開してゆきます。

画家たちは、屋外での制作を通して、神話や聖書などの物語の背景でしかなかった、景色や自然そのものに、大きな可能性を見い出したのです。名画の数々でたどる「印象派への道」を心ゆくまでご堪能ください。

08

Chapitre 4 ウジェーヌ・ブーダン

Eugène Boudin

またの名は「空のラファエロ」

戸外制作の先駆者の一人であった画家ブーダン。絵の中で光を追求した結果、瞬間の表現が現れた。ブーダンが求めたのは、「大空の中で泳ぎ回ること。雲の繊細さに到達すること。雲の量感を、背景の灰色がかった霧の中、十分遠くに配して、青をぱっと輝かせること。」(日記、1856 年)。ブーダンは、若き日のモネを、野外制作へと導いたことでも知られる。天候の変化までも察知したというこの画家を、コローはこう呼んだ。「空の王者」ブーダン！

ウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)
「水飲み場の牛の群れ」1880–95 年　油彩／カンヴァス　Inv. 907.19.33

Chapitre 5 印象主義の展開

Le développement de l'impressionnisme

09

人肌を描くように森を描く

ノルマンディー沿岸やフォンテーヌブローの森は、ルノワールの芸術的展開にとって非常に重要であり、画家は戸外で制作し続けた。本作は小型の粗描であるが、生き生きとし、かつ正確なデッサンの質に注目したい。

ピエール=オーギュスト・ルノワール(1841-1919)
「風景」1890 年頃　油彩／板に裏打ちされたカンヴァス
Inv. 949.1.61

10

印象派ピサロ最高峰の一点

晩年のピサロは、パリの風景に取り組んだ。1900年にはシテ島に一室を借り、セーヌ川とルーヴル宮殿の連作に着手している。本作は連作の最後に位置づけられるもので、画面中程に芸術橋、その奥にルーヴル美術館を描いている。1903年には新たな部屋を借り、連作をさらに発展させようとしたが、この年の11月、ピサロは73歳で生涯を終えた。コローからモネまでのフランス風景画の全てを体現した1枚がここに遺された。

カミーユ・ピサロ(1830-1903)
「ルーヴル美術館」1902年　油彩／カンヴァス
Inv. 907.19.208

11

モネが愛した"美しき島"

1886年秋、ブルターニュのベル＝イルに赴いたモネは、「手つかずの海岸」に取り組む。画家は、一定の視点から一日の異なる時間帯の光が生み出す色彩を研究するため、複数のカンヴァスを並べて制作した。本作の風景を構成する様々な要素で彩られた外観の研究は、過ぎ去る時間に対する画家の執拗な探求を示している。こうした研究を深めたモネは、晩年、ほとんど抽象化された連作《睡蓮》に至る。

クロード・モネ(1840-1926)　「ベリールの岩礁」1886年　油彩／カンヴァス　Inv. 907.19.191

© MBA Reims 2019/Photo : C.Devleeschauwer